

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年11月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103656
法人名	有限会社 オフィスセントラル
事業所名	グループホーム あおば
所在地	鹿児島県鹿児島市東坂元2丁目31番3号 (電話) 099-248-5511
自己評価作成日	平成27年7月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数性のグループホームだからこそ出来る細やかなケアを考えて、実践していきたいと思っております。認知症の方の種類がたくさんあり、その他の病気も加わって、対応が難しくなっています。主治医は、肥後クリニックと内村川上内科を利用して対応しております。その他に、出来るだけ多くの時間を自分らしく過ごして頂く為に、認知症の進行を遅らせ、緩和出来ればと考え、認知症専門病院の医師に月1回、往診していただき、適切なアドバイスを頂いています。ご本人様の意思を大事にし、ご自由に過ごして頂きながらも、安全と安心に細心の注意を図りながらケアさせて頂いております。年に2回家族交流会を開催し、和やかな雰囲気の中で、歌やゲームを楽しんだり、お食事の後、ご家族にお餅つきをして頂き、親睦を深めて頂いております。石臼を使用するお餅つきは、好評を頂いております。他に、職員参加の行事があり、おはら祭りの前夜祭には、関連の全グループホーム、施設の職員が、親睦を兼ねて参加しており、利用者様には前日に職員がそれぞれの施設を回って、お披露目をしております。夏祭りや新年会は、グループホーム合同で行います。リフト車を利用して、出掛けることが出来るようになりましたので、車椅子の方々にも踊りを見て頂いたり、歌を歌って頂いたり、かき氷や綿菓子、ぜんざいを味わって頂いたりしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<理念と基本方針>
・ミーティング時に理念と基本方針について確認・共有しあい、年1回程度は理念が現状に即したものとなっているかをみんなで話し合っている。その結果、理念の変更を行ったこともある。
・基本方針に「介護サービスの充実、快適な環境作り、関係者との連携」の3項目を掲げ、実践できているかをミーティングや運営推進会議等で確認し合っている。
<看取り支援について>
・入居時に重度化や看取りの希望について伺い、入居後も本人や家族の希望する支援のあり方に変化は生じていないかを時々確認し現状に即した支援を心がけて、本人と家族の安心につなげている。
・医師や訪問看護等医療との連携が上手くとられ、職員も安心して重度化した時の対応や看取りの支援を実践することができている。
<人格の尊重、プライバシーについて>
・援助する場合、毎日変化する表情や言葉を寄り添うことで汲み取るよう努めており、声かけの方法や介助方法、特に排泄支援については、他の利用者にも配慮しながら声をかけるようにしている。
・利用者との信頼、親しみの関係が職員の馴れ合い過ぎた言動にならないよう、その都度職員間で話し合い、時に注意し合うなどして、人生の先輩に対する接遇を心掛けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	どのようにしたら、住み慣れた地域の中で、安心して暮らせるのか考えながら理念を作り、ミーティングで、理念の意味を掘り下げて、同じ目標を持って、よりよい介護の在り方を話し合っている。	「安心と幸せ」という言葉を含む理念に加え、サービスの充実と快適な環境作り、関係者との連携を図ることを基本方針に掲げるとともに、玄関やフロアへの掲示と職員のネームプレート裏に明記することで日々のケアへの実践につなげている。また、理念と基本方針が現状に即しているかを定期的に話し合い確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設を受け入れていただけるように、町内会に加入しており、公園清掃や町内美化活動などに出来るだけ参加している。隣のスーパーへ、買い物に出かけて挨拶を交わしたり、話をしたりしている。	自治会に加入し地域の清掃活動等に可能な限り参加するようにしている。サマーボランティアの受け入れや高校生の介護実習の受け入れを積極的に行うなど学校や地域との付き合いを大切にしている。また、事業所前で外気浴を楽しんだり近くの公園に出かけた際には、地域の方と挨拶や会話を交わすなど日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ご家族向けに作った認知症の理解の資料を差し上げたり、入居者様と一緒に花や野菜を育てているところを見ていただくことで、どのような施設であるのか理解していただく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、外部評価の結果を報告し、今後の取り組みについて話し合いをしたり、その場で取り上げられた検討事項についてその経過を報告し、サービス向上の手がかりにしている。	会議には家族や民生委員のほか、地域包括支援センターの職員や同系列法人の職員らが参加して事業所の活動内容の報告や看取り、地域との関わり等について話し合っている。出された議題については、メンバーから活発な意見をもらい支援策について関係者全員で話し合っており、今後サービスを提供していく上で大いに参考になり、心強いものとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員の受け入れにより、入居者様の希望や意見を参考にサービスへの質の向上に役立っている。	介護認定の更新申請や運営推進会議、介護相談員の受け入れ等行政職員と顔を合わせる機会が多く、認定時の訪問調査員とも話す機会があり事業所の実情を伝える機会が多い。また、地域包括支援センターから利用状況の確認や利用者の紹介等の相談を受けることもあり日頃から連携を図っている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングの中で、繰り返し研修を行い、ケアを振り返り、気づいていない身体拘束はなかったか点検して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居者様の行動パターンを把握して、外出したいときに一緒に出かけるようにしている。	身体拘束ゼロの取り組み等の内容を含むマニュアルを準備し、年1回職員研修を実施しているほか、身体拘束廃止委員会を設け、身体拘束をしないケアの実践に向けミーティング時に話し合っている。要介護5の利用者も多い中、夜間も2時間ごとに体位交換するなど、長時間同じ姿勢で過ごさないよう留意している。言葉による拘束についても日頃から留意しており、その都度、適切な言葉かけについて職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、高齢者虐待防止関連法について話し、理解を促している。例えば、自分の親だったら、どのようにしてほしいかを考えながらケアをするようにして、具体的なことを提示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会あるごとに、このような制度があることを職員の説明している。対応が必要なケースには、管理者が中心となって対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書により契約を結ぶ際、利用料金や入居・退去の基準の詳しい説明を行い、同意を得るようにしている。利用者の状態変化により退去に至る場合は、ご家族やご本人と対応方針を相談し納得していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族交流会や運営推進会議等において常に問いかけたり、ご家族が、訪問された時、何でも話せる雰囲気作りや声かけを心掛けている。出された意見や要望は、ミーティングで話し合っている。	利用者の意見や要望については、日頃の様子や声かけ時の表情、笑顔等から汲み取るとともに、家族からも来所時や家族会において詳細に意見を聞き取るよう努め、速やかに対応につなげている。また、遠方の家族には、毎月個別に作成している写真入りの園便りを送付して事業所での様子を伝えることで、家族との交流を持ち、情報交換や意見をもらいやすくしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週1回定例会「ミーティング」を開き、職員全員の意見や提案を聞く機会や話し合いの機会を設けている。事あるごとに問いかけをしたり、意見を求めたりしている。申し送りノートにも、意見を書いてもらっている。	管理者は日頃より職員の意見に耳を傾けており、意見を言いにくいような場合には、困りごとは生じていないか等個別に聞くようにしている。また、ミーティングの際も職員が積極的に意見が言えるよう雰囲気づくりに気を配ることで、介護方法や住環境について工夫すべき点について意見を出し合い話し合うことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、勤務状況を把握し、貢献年数により、表彰している。ミーティングにも積極的に参加して、意見を聞こうとされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護支援専門員協会・社協の主催する研修などを積極的に受講するとともに、月1回職員の勉強会を開いている。参加できなかった職員も、資料と報告書を閲覧できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連グループホームの管理者と事例の検討などを行う事で、質の向上に役立てている。包括支援センターの交流会や勉強会に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談があった時、ご本人に面会して話をお聞きしたり、入居されてからは、事あるごとに、心身の状態や思いを話していただけるような声かけや機会を作り、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談と見学に訪問されたとき、ご家族の苦労や不安などをゆっくり聴くようにしている。予約された後、時々近況をお聞きしたりする事で、信頼関係を作ることに繋がっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、早急な対応が必要なのかどうか、ご本人とご家族の思いや状況などを確認し、可能な限り柔軟な対応を行っている。 (他のグループホーム・デイサービス・ショートステイなど)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様と共に暮らす同士であり、人生の先輩であるという考えを共有しており、入居者様の得意な分野（料理の仕方、行事の風習など）において学ぶことが多く、相談しながら物事をすすめるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、入居者様のご様子をお話ししたり、思っている事をお伝えすることで、ご家族と協力し合っご本人を支えていける関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入れ替わりがあったが、入居者様の半数は地域に暮らしていた方達なので、気軽に面会に来てくださる。また、毎週外出されて、家に帰られる方もおられ、馴染みの場所や人に思いを巡らせられるように支援している。	これまでの馴染みの関係が途切れないよう支援しており、家族や友人、知人の来訪も多く、事業所はゆっくり会話ができるよう環境に配慮している。家族の支援により、毎週外出したり、自宅に帰る利用者もおり家族との関係は良好である。また、家族に送付する園便りは利用者ごとに作成しているため、近況を詳細に報告することができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、毎日お一人おひとりに時間を作って声をかけ、話を聴いたり、食事の時間もそばで、多くの会話を持つようにしている。介助の必要な方には、元気な方のそばに座っていただき、手伝っていただく事で楽しく支え合っ過ごせるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状などを差し上げることにより、近況を知らせて下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ関わりを持つように心掛けご本人が、どのように暮らしたいのか、どうすることが、最良なのかをご家族や職員を交えて検討している。週1回ご家族と外出していただくことで、施設にいても、家族なのだ安心していただけるようにしている方もいる。(ご家族) 家族に会いたいと思っている方々の中には、毎週や一日おきに面会にいらして下さる方もいる。	本人の思いや意向、暮らし方の希望を日々のこまめな声かけで行動や表情から汲み取るようにしている。また、家族からもこれまでの過ごし方や今後の暮らし方について話をする機会を設けている。把握した内容は連絡ノートに記録して、申し送り時に情報交換し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、自宅や施設や病院に訪問させていただき、ご本人やご家族から聴き取りをさせていただいたり、アセスメント表にも書き込んでいただいている。入居後も、折りに触れてご本人に問いかけ、どのような暮らしをされていたのか把握するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様お一人おひとりの生活リズムや心身状態を理解するように努め、出来ることや理解できることなどを把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に、思いや意見を聴くための話し合いの機会を持ったり、遠くてなかなか訪問することができないご家族には、電話や手紙を利用して意見交換を行い、介護計画の作成に活かしている。また、定例会を利用して、職員との意見交換やモニタリングをしている。	今後どのような生活を送りたいかを本人と家族から聞き取り、モニタリング結果や医師の助言等も含め関係者全員での話し合いの下で介護計画を立てている。また、入院等状態に変化がみられた場合はアセスメントを取り直し、改めて現状に即した介護計画を作成しており、本人や家族を含め関係者による話し合いの下で介護計画を確認し同意を得て関係者に交付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が、毎日、入居者様の状態変化や気付いたことを介護記録・業務日誌・申し送りノートに書き込み、勤務開始前に確認することで、情報の共有化を図り、職員間のケアの実践や介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の送迎や付き添い・日常的な買い物の支援など、入居者様の希望や生活状況から発生するニーズに柔軟に対応している。希望により、ご家族のために、食事を準備したりして、ゆっくりと過ごしていただくための支援もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特別支援学校の実習生の受け入れや民生委員さんやボランティアの方が、訪問してくださったり、近くのケアハウスからのお誘いで、演芸会や法要や祭りに参加させていただいたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の意向を確認し、協力医療機関や以前からのかかりつけ医で継続して受診できるように支援している。他科受診の際もご家族の希望する医療機関を利用することができる。ご家族同伴の受診だが、ご家族代行で職員ができることを説明し、同意を得ている。	個々のかかりつけ医を把握し家族と職員が協力しながら受診に同行している。受診の際は、体温や脈拍、血圧のほか、排泄の状況や水分摂取量等が一覧となって記録された「日常生活身体状況」を持参することで日頃の状態を伝えており、また、受診の内容については、毎日の申し送り時に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、訪問看護と連絡ができていて、情報を共有できている。血圧や体温の異常に気付いた時やいつもと違う心身の変化に気付いたら、すぐに電話連絡をして、指示や助言をいただくようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の医療情報提供を依頼したり、介護情報の提供書を書き、安心して入院できるように手配したり、退院時には、病院の相談員の方と納得がいくまで話し合うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、終末期の在り方をご家族・医師・看護師・職員を交えて話し合いの場を何度も持ち、看取りをさせていただいている。家族交流会の中で取り上げ、それぞれのご家族の気持ちをお聴きし、支援に繋げている。重度化された時には、もう一度、話し合いを行うようにする。	入居の際に「重度化した場合に係る指針」を基に看取り支援の意向を確認しており、入居後も本人や家族の思いを再確認する機会を設けるなど思いの変化を繰り返し確認している。看取りについては、日頃から訪問看護職員による勉強会の開催や外部研修会に参加することで知識と技術の向上を図っているところであり、医師や訪問看護との連携を密に図りながら看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルを基に、ミーティングの中で、繰り返し訓練をしている。看護師を講師にして、話を聞くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署とセキュリティ会社の方々の協力を経て、避難訓練（特に夜間帯での訓練）や避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練を年2回行っている。関連ケアハウスやクリニック職員の協力や近隣の方たちの協力もお願いしている。運営推進会議においても、話合っている。</p>	<p>火事や地震、台風等の災害訓練を年2回夜間想定を含み実施しているほか、桜島の噴火を想定した避難方法についても確認し合っている。また、地区の防災訓練にも参加して、炊き出しや応急処置の方法について学ぶなど地域とも連携を図っている。備蓄や備品等については、食料や水のほか、個人毎に準備している非常持ち出し袋を事務所に一括して管理している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員にとって、入居者様は、自分の家族だと思って接するように心掛けており、尊敬の気持ちを忘れないような声かけや対応をしている。さりげない介護や誘導ができるようにミーティングを利用して意識向上を図っている。	プライバシーの確保や接遇等の研修を事業所と法人と合わせて年2回程度実施しており、日頃から人生の先輩であることを十分に理解し尊重した上で丁寧な言葉で声をかけるよう努めている。また、個人カルテは来訪者から見えないよう戸棚に管理し、ボランティアの方には、守秘義務等十分に説明した上で受け入れるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりの体調・体力・理解力に合わせ、出来そうなことや興味のありそうなことを探して、言葉かけを試みる。ご本人が希望されないときは、無理強いしないように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活をしてもらいたいというご家族の希望があり、基本的な一日の流れに従って過ごされているが、その日の体調やご本人の希望により、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服を着られる際できるだけ見守りや支援をして、季節感のあるその人らしい身だしなみができるよう心掛けています。髪も、希望に合わせたカットをしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや苦手なものを把握し、旬の食材やメニューを工夫することで、食事が楽しみになるようにしている。食材と一緒に見ていただき、献立を決めたり、片付けに参加していただいたりしている。食事の時は、同じテーブルについて話しながら食事をしている。	当日に利用者に食べたいものを尋ねたり、冷蔵庫内にあるものを利用して季節感に配慮したメニューを工夫し提供している。嚥下の難しい利用者には、とろみやミキサー食を提供しており、職員も会話を楽しみながら同じものを一緒に食べている。また、誕生会や行事の際のメニューについても季節を感じられるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事ができるように食事の内容や摂取量を記録している。職員は、同じテーブルについて食事をするので、入居者様の状態を把握できている。飲み込みが悪い方は、おかゆや刻み食やミキサー食やとろみなどで対応し、水分量の少ない方には声かけし、支援している。定期的に栄養士のアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人お一人に歯磨きの声かけを行い、職員がそばで見守りながら、きれいになったか確認するようにしている。一人でできない方は、職員が義歯と口の中をきれいに磨いている。義歯洗浄剤を使う日も決めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導や声かけにより、トイレでの排泄や尿取りパットの交換をすることで、自立に向けた支援をしている。特に、昼間はトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を参考にしながらトイレ誘導を行っており、日中はトイレでの排泄を基本に対応している。また、夜間はおむつを使用しても日中はリハビリパンツで対応するなど可能な限りおむつを外せるよう努力している。これらの一連の工夫は、介護計画に組み込むことで職員全員で対応することができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から野菜を多く取り入れたメニューで食物繊維をたくさん摂取するように心掛けている。決まった時間に声かけをし、トイレに誘うようにしている。なかなか排泄がない方には、下剤を使うこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	平日は、午前中クリニック受診をされる方がいらっしゃるの、午後から夕方までの間、入浴できるように準備している。ご本人の希望を確認し、入浴を嫌がられる方には、タイミングを計って何度か言葉かけするようにしている。	8月以降午前中に受診する利用者がいなくなったため、一日を通して入浴が可能となったが、介助量を多く必要とするため、一日に3人程度の入浴支援が限度である。入浴を嫌がる利用者には、声かけの時間を変えたり、次の日に誘うなど変化させて対応しており、入浴時の皮膚観察や爪切り等についても適切に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて、昼寝をしていただいたり、早めに休んでいただいたり、ゆっくりとリビングで過ごされ、眠くなるまでお話しされたりして、落ち着いて眠れるように支援している。昼間はできるだけ起きて活動していただけるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや服薬管理票を作成し、いつも確認するようにしている。薬の処方や用量が変更されたり、ご本人の状態の変化がみられる時には、日誌や申し送りノートに記録やメモを取り、医療機関と連携が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの力が、発揮できるように色々な場面を作って、興味のありそうなことに声かけをしている。ボール遊びや洗濯物畳み・掃除など得意なことを見つけて挑戦していただけるようにしている。ご本人が希望されない時は無理強いしないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	クリニック受診がある時は、ドライブ感覚で治療に出かけられる。本人のご希望に添って出かけている。外食やお墓参りなどは、ご家族の方をお願いしている。「息子さんに会いたい。家に帰ってみたい。」とよく言われる方は、ご家族に協力していただいて、都合の良い時、外食に連れ出してください。	屋内ばかりではストレスにつながるため、初詣や花見、彼岸のお寺詣り、地区の祭りや法人の夏祭り等にリフト車を利用して出かけている。個別に買い物の希望がある場合は、近くのスーパーまで出かけ買い物を楽しんだり、家族の協力をもらい、お墓参りや外食等に出かけたりしている。また、散歩などの外気浴については、天候や体調に合わせて出かけており、近所の方と挨拶や会話を交わす機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない方がほとんどだが、隣がお店なので、職員と共に買い物に行き、欲しい物を選んでご自分で買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人が希望すれば、職員が電話してお話をさせていただいている。また、遠方のご家族は、定期的に掛けてくださる方もいらっしゃる。手紙が書ける方は書いていただき、出せるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、可愛い置物があり、明るい雰囲気ですいつも季節感のある花を生けるようにしている。カウンター越しに台所の様子が見えるようになっているので、ご飯や料理の匂いや食材を刻む音、食器を洗う音など生活感を味わえるようになっている。リビングから見える外の景色はとてもきれいで、眺めが良く、好評である。	季節の花が生けられた明るい雰囲気の玄関を入ると桜島が眺望できる見晴らしのよいフロアとつながっている。また、フロアには利用者と職員と一緒に作った季節毎の作品が飾られており季節感が感じられる。照明のほか、においや温度にも気を配っており、エアコンや窓の開閉等により、こまめに調整している。また、冬は空気の乾燥や感染症対策を兼ね、加湿器を設置するなど居心地良く過ごせるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたり、廊下の隅に椅子を置いたりして、お一人で過ごしたり、気の合う方とお話をされたりして、くつろげるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持ち込んでいただくようお願いしている。慣れ親しんだ家具・ご家族の写真・化粧台・仏壇・時計など安心して過ごしていただけるように心掛けている。	各居室にはベッドとエアコン、洗面台が備えられ、写真や手紙、仏壇等を自宅から持ち込み、自由に配置して過ごしている。また、居室入口に本人の写真を掲示することで自分の居室だということへの理解につなげている。居室の掃除は毎日午後より職員によって行われ清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは、手すりが付いていて、お一人でも座ったり、立ち上がったりできるようになっている。廊下が広いので安心して車椅子を使用していただける。更衣室も浴室も広く、車椅子でも浴室の中まで楽に行くことができる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない